

様式1 令和5年度 山梨県立上野原高等学校学校評価 実施報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 校訓「観知創造」の精神のもと、21世紀をたくましく、心豊かに生き抜き、社会の進展や調和に貢献できる人間を目指す

山梨県立上野原高等学校校長 小笠原 宏

本年度の重点目標	1 基本的な生活習慣の確立と、安全管理・規範意識の高揚を図る指導に努める。 2 学習習慣の確立と確かな学力の定着を図り、個々に応じた進路実現をめざしたキャリア教育の充実に努める。 3 生徒会活動を活性化するとともに、諸活動をおして心身の健やかな成長を図る指導に努める。
----------	--

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

【評価点】 報告書に記載した数値は原則これである。R4評価→R5評価【増減】  
 評価点は、回答%に係数を乗算した総和(計算式) 中央値は(0)となる

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

本年度の重点目標			自己評価		年度末評価(2月 28日 現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	基本的な生活習慣の確立と、安全管理・規範意識の高揚を図る指導に努める。	① 自己管理能力の育成を図り、遅刻や欠席、朝食の欠食を減らす基本的な生活習慣の確立を図る指導 ② 法令遵守及び社会規範への意識を高め、確立を図る指導 ③ 節電・節水、ごみの分別などを通じて、環境美化を意識させる指導	学校評価アンケート等 学校評価アンケート等 学校評価アンケート等	以下、生徒評価、教員評価、の上位2項目、下位2項目のうち、この評価項目1に該当する結果のみ示す。(数字)は順位 []は評価点 ただし保護者評価は、1項目のみ。 上位2項目 【教員評価】(1)感染症対策[50] (2)節電節水分別[44] 【生徒評価】(1)開始時刻着席[87] (2)節電節水分別[82] (保護者評価)(1)朝食を毎日食べる[69] 下位2項目 【教員評価】(1)スマホSNSの使用[2] (2)校則規範意識[28] 【生徒評価】(1)朝食を毎日食べる[60] (2)避難場所経路の確認[62] (保護者評価)(1)災害時の話し合い[17]	B	昨年度から改善した項目(プラス10ポイント以上増加) 【教員評価】・該当項目なし 【生徒評価】 ・感染症対策 65→77[+12] 次年度改善を要する課題(マイナス10ポイント以上減少) 【教員評価】 ・スマホSNSの適切な使用 32→2[-30] ・校則規範意識の育成 41→28[-13] ・節電節水分別 55→44[-11] 【生徒評価】・該当項目なし 校則に対する規範意識については、生徒と教員の意識の違いはあるが、今後もルールの意味について話し合いを継続する必要がある相互理解を深めたい。スマホやSNSの適切な利用については、情報リテラシーの育成を図るなど、早急な対策が必要と思われる。
2	学習習慣の確立と確かな学力の定着を図る。個々に応じた進路実現をめざしたキャリア教育の充実に努める。	① 家庭学習と授業の一体化を進め、確かな学力の定着を図ると共に、学ぶ意欲を高め、主体的・協働的な学びを深める指導 ② 相談活動及び個々に応じた指導の充実に努め、個々のキャリアを形成していく進路実現を図る指導 ③ 主権者教育や社会参画・地域連携事業を通して、未来を担う公民としての資質を育む指導	授業アンケート等 産業社会と人間、総合的な学習の時間での指導 行事アンケート等	以下、生徒評価、教員評価、の上位2項目、下位2項目のうち、この評価項目1に該当する結果のみ示す。(数字)は順位 []は評価点 ただし保護者評価は、1項目のみ。 上位項目 【教員評価】(1)基礎基本の定着[59] (2)シラバスや観点別評価[59] 【生徒評価】(1)評価標準の理解[79] (2)産社総探課題研究[78] (保護者評価)(1)プランが生徒に合う[67] 下位2項目 【教員評価】(1)家庭学習と授業の一体化[12] (2)発展的な学習[18] 【生徒評価】(1)自主的な学習習慣[30] (3)授業計画の把握[55] (保護者評価)(1)家庭学習の習慣[26]	B	昨年度から改善した項目(プラス10ポイント以上増加) 【教員評価】 ・基礎基本の定着を図る 47→59[+12] ・シラバス観点別評価 42→52[+10] 【生徒評価】・該当項目なし 次年度改善を要する課題(マイナス10ポイント以上減少) 【教員評価】・該当項目なし 【生徒評価】・該当項目なし 教員評価の「授業と家庭学習の一体化」は、評価点1桁前後で長年推移してきた。補充的な学習指導に時間がかかり、基礎学力定着のために家庭学習と有機的に結びつけさせる段階に至っていないことを示唆する。その分「発展的な学習指導」に手が回っていないことが分かる。(←9ポイント減) 1,2年次ともにBYODが導入され、ICTの活用はR5年度に更に推進された。(+9ポイント増)。協働学習、個別最適な学びを支援するため一層の活用が求められている。
3	生徒会活動を活性化するとともに、諸活動をおして心身の健やかな成長を図る指導に努める。	① 文武両道の実践に向けた指導と各部の目標達成への積極的且つ規律ある部活動の指導 ② ホームルーム活動をおして活力あるクラスづくりを目指すと共に、いじめをなくし生命と人格を尊重する態度を育てる指導 ③ 集団活動や種々の読書活動をおして、思考力・判断力・表現力などの育成を図り、他と協働し協力し合うなど、思いやりのある心を育てる指導	学校評価アンケート等 心ボックスやいじめアンケートの活用 学校評価アンケート等	以下、生徒評価、教員評価、の上位2項目、下位2項目のうち、この評価項目1に該当する結果のみ示す。(数字)は順位 []は評価点 ただし保護者評価は、1項目のみ。 上位2項目 【教員評価】 (1)カウンセリングマインドで対応[58] (2)いじめ不登校防止と支援[52] 【生徒評価】(1)SNSの正しい使用[86] (2)進路目標を考える[82] (保護者評価)(1)保護者の意見が言える[64] 下位2項目 【教員評価】(1)文武両道の指導[12] (2)生徒会活動の活性化[32] 【生徒評価】(1)部活動へ積極的な参加[44] (2)朝読書の取組み[69] (保護者評価)(1)家庭での読書[-15]	B	昨年度から改善した項目(プラス10ポイント以上増加) 【教員評価】・該当項目なし 【生徒評価】 ・いじめや不登校防止の支援 62→72[+10] 次年度改善を要する課題(マイナス10ポイント以上減少) 【教員評価】 ・朝読書の指導 60→34[-26] ・HR活動活力あるクラス 57→44[-13] ・生徒会活動の活性化 43→32[-11] ・文武両道の実践 22→12[-10] 【生徒評価】 ・部活動への積極的な参加 54→41[-13] ・感染症対策 78→65[-13] コロナ対応が見直され、生徒会活動の制限も解除された。一方ですぐに従前の活動にスムーズに移行出来ない部分もあり、生徒会活動全般と活力あるクラスづくりに多くの課題が残った。HR活動や部活動に関しては、生徒数の減少が背景にあるが、加入率の低い年次もあり、生徒の意識の変化について、今後調査分析していく必要を感じた。
4	教職員の働き方改革を進める。	ICTの活用を促進し、日常業務や授業準備などに係る時間短縮と効率化を図る取り組み	職員アンケート等	【教員評価】業務改善と効率化の取り組み[37]	A	令和5年度の評価は、18(前期)→37(年度末)と+19ポイント増加したことから会議や行事の見直しが進み、またICTの活用により業務の改善が進んでいると考えられる。

学校関係者評価	
実施日(平成 6年 3月 15日)	
評価	意見・要望等
3	◎ 校則は大切であり、先生と生徒がより良い方向に向き合い話し合うことが何より重要である。なぜ校則が重要なのか、生徒に理解させることが肝心であり、ルールを守ることは、自分を守ることでもあるという視点を持たせ、基本的な生活習慣に則した指導をしてほしい。 ◎ 校内では挨拶の習慣があるようであるが、通学時などすれ違いに挨拶できる生徒が以前より少なくなったと思う。地域の学校でもあるので、もっと挨拶の励行を推奨してほしい。 ◎ 首都圏直下型地震、南海トラフ地震、富士山の噴火等、近い将来に発生する災害を想定した防災避難訓練の実施を希望する。これらの災害について、学校のみならず地域と連携した防災教育を進めるべきである。
3	◎ 現在の中学生は、進路選択の幅が広がり、高校を選ぶ際にしっかり考える傾向がある。なので生徒目線で生徒に寄り添った、個々の生徒の進路指導を充実させる事が、学校の強みになる。就職から大学進学まで全てを網羅し指導してきた成果と考える。 ◎ 生徒数の減少という厳しい現状はあるが、その強みを活かした教育活動を実践する時代に入ったと考える。学校だけでなく、中学校や地域との連携を深める教育実践が求められている。 ◎ 学習を自分事と捉え客観的に振り返る指導が必要と思われる。また学力差が大きい場合、これまでのような教師主導の一斉授業では効果が得られない場合も多い。教師の意識改革が重要であり生徒に即した興味関心を高める授業展開を新たに生み出すことが必要と思う。 ◎ ICTの普及によって、その利点を活かした授業が望ましいと考える。今年度はその活用によって、効率的な学習が行なわれている。今後も継続してほしい。
3	◎ 総合学科発表会に臨む生徒たちの目の輝きは素晴らしく、自分の意見を伝え、課題をはっきりさせるなど、自分の将来について真剣に考えている様子を知ることができた。 ◎ 高校の取り組みについて、中学生が知る機会が少ないと思う。総合学科の魅力や高校生がどのような学びをして夢の実現に近づけているのか伝える機会があると良い。中学校と年数回交流できる時間を作り実現させてほしい。 ◎ 生徒会活動は、コロナ禍明けで以前のような形態の活動は、難しい面もある。生徒とよく話し合い、短時間でも質の高い活動となるよう、相互に工夫していく必要がある。
4	今後も業務の効率化に取り組むこと。

※添削 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。